

まちを見守る みんなのために

市内では様々な方が、地域の問題を解決するために活動されています。

今回は、身近なボランティア活動の一例として、子供たちの見守り活動を取上げます。

学校の登下校の時間。通学路には、子供たちを見守るたくさんの地域の方々の姿があります。

子供たちの周りには、交通事故や不審者の発生など、危険なことが潜んでいます。

見守り活動のある通学路では、温かい目に見守られて、子供たちも安心して通学することができま。

長年、自主的な活動を続けられている方のお話を伺ってみました。

その通学路からは、毎朝「おはようございます」、「いってらっしゃい」と、元気な声が聞こえてきます。

「何かの役に立ちたくて始めたんだけど、逆に子供たちから元気をもらってるんです



毎日元気に活動する竹内さん

「よー」と明るい笑顔で子供たちを見守る竹内さん(羽東在住)。お孫さんが小学校に通い始めるのをきっかけに、毎朝通学路に立ち、自主的に見守りを行っています。今ではそのお孫さんも6年生とのこと。あの頃(5、6年前)は、子どもを狙った犯罪があったり、道路に危ない物を捨てていく人がいたりして、孫のことも心配だったんです。毎日続けていたら、歩いて通る人は、子どもも大人もあいさつしてくれるようになって、

うれしいですね。」「基本はあいさつから」とよく言いますが、朝から元気にあいさつできるよ、一日が気持ちよく過ごせそうです。

人と人のつながり(きずな)は、こんなところから始まるのかも知れません。市内には、他にもたくさんの方が同様の活動をされています。

雨の日も風の日も、暑い日も寒い日も見守りを続ける皆さん。健康に気をつけながら、笑顔で続けていただきたいと思います。

自分たちのまちを良くしようとと思う心は誰にでもあるはず。」「何をしてもらいたいかな」

だけではなく、自分には何ができるのか”を考えることも、人間関係やまちづくりにとつて、とても大切な要素なのではないでしょうか。

「ボランティア」という言葉がありますが、そんなに改まらなくても、自然体で考え、身近なところからそつと行動してみることで何かが見えてくるかもしれません。みんなのためにできること、はじめてみませんか?

安全で安心して暮らせるまちの実現へ NPO法人 「市民パトロールセンター」はむら誕生

今年9月、市内に新たなNPO法人が誕生しました。地域の安全・安心のために活動する団体です。今回は、この法人から寄せられた内容を紹介します。

市民パトロール センターはむらから

羽村市では、「羽村市防犯、交通安全及び火災予防に関する条例」に基づき、具体的な施策を総合的かつ計画的に推進するために、各団体、組織代表者、学識経験者、公募市民で組織する「羽村市防犯、交通安全及び火災予防推進会議」を設置しました。

そして、生活安全に関する活動がどのような形態で行われているか等、調査・検討がなされた結果、活動の核となるセンターの設置が必要である、という結論を得ました。これを受けて「市民パトロールセンター」とボランティア団体「市民パトロールあおはずく隊」が組織され、平成22年5月

から小作駅東口に、翌23年5月には羽村駅西口にセンターが開設され、パトロール活動を開始しました。

ボランティア団体では、羽村市から貸与された青色回転灯を搭載したパトロールカーで、羽村市全域を網羅した活動に全力をあげております。現在でも、不審者の出没、痴漢行為、ひったくり、つきまとい等の情報も多くあります。そつした地域のパトロール強化と、警察との情報交換等、連携を密にし、また、多くの市民の方々に情報提供し、防犯意識を高めてもらえればと考えています。

このようなか中、組織の充実、継続性を図るために、特定非営利活動法人の認証取得のために努力してきたところ、平成23年9月に、東京都知事の認証を取得いたしました。これを機に、防犯等の活動に一層の努力をしてまいりたいと考えております。